

しが国際協力親善大使レポート

しみず ちしろう
清水 千翔さん

隊次：2018年度4次隊

職種：上水道

派遣国：ネパール

自己紹介

滋賀県高島市出身。市役所で約5年水道課職員として勤務した後、青年海外協力隊（上水道）に参加。2019年4月より、ネパール連邦民主共和国ラメチャップ州マンタリ市にて活動中。

活動地域の気候や文化の紹介

私が活動しているラメチャップ州マンタリ市は、首都カトマンズから南東に約130km、車で約5時間強の場所にあります。自然豊かな美しい丘陵地帯で、とうもろこし畑と米の田園風景に癒されています。気候は雨季（6～9月上旬）乾季（9月下旬～5月頃）。私が暮らす地域は（標高530m）猛暑時期の外気温は44℃超え、日差しは強いですが湿度は低いです。現在は（11月）過ごしやすい気候です。主食はダルバート（豆スープ・ごはん）です。

活動や生活について

私の配属先はManthali Municipality Office（マンタリ市役所）のInfrastructure Development Section（インフラ開発部門）で、約10名のエンジニア・サブエンジニア職員たちと現場測量・設計・工程管理・窓口対応の仕事に就いております。主な活動としては、フィールドワークから課題点を分析・抽出し、状況改善の為に技術提案・現場指導を行ったりしています。また、他任地の協力隊員と協力してワークショップを開催し、水道配管の施工品質の向上、管路維持の日本の取組などをネパール水道関係者に実技方式で指導しています。マンタリ市の水事情については、配水管（HDPE）の殆どが露出配管で（現在は埋設化が進められています）2日に1回配水（2～3時間）される状況です。給水管の継手や損傷による漏水が多く、（Plumberと呼ばれる配管工の施工不良）無効水量の問題が目立ちます。修繕したくても限られた予算、設備、人的資源でできることは限られています。その制限の中で、できることを現場で日々悩みつつ試行錯誤しています。今後の目標としては、無効水量を減らすための意識改善活動に加え、埋設管の漏水調査について実技指導したいと考えています。職種外の活動では、村の学校訪問の際に公衆衛生の一環として手洗い（2度洗い）の指導を行い、子供を通して大人も巻き込んだ衛生教育の推進を図

りたいと検討しています。

マンタリ市に住んで約半年。赴任当時は言葉、文化の違いにより意思疎通がなかなかできずに苦しんだ時期もありました。また、赴任時は（2019年5月頃）猛暑の気候で、事務所で座っているだけでも汗が止まらない、暑い時期に飲むホットチャ（お茶）、ネパール料理、頻繁な停電等、日本との生活環境の違いに驚きました。バザール（市場）方面は舗装されていますが殆どが未舗装道路の為、でこぼこで車が通過する度に砂ぼこりが巻き上がります。交通マナーが悪く、自己中心的な運転と頻繁に鳴り合うクラクションには未だに慣れません。

しかしながら、友人たちと支え合って生活をするうちに、赴任当時抱えていた問題は今となっては笑い話です。配属先職員のみならず、地域の住民の方と接する機会も多くあり、とても親切にしてもらっています。頻繁にカジャ（間食）の誘いや家庭に招いてもらい食事をごちそうになったり、家族行事に参加させてもらったりしながら、交流を深めており、任地の人たちに受け入れてもらえたと感じます。最後に、この地で活動ができるのは、皆様からの支援があるからです。感謝の気持ちを忘れず、多くの方々と一緒に活動していきたいです。そして、今後任地での学び・経験を他の人達へ伝え、ネパールの人々との繋がりを多くの人達に広げたいと考えています。



他任地の協力隊員（南 JOCV）と協力してワークショップを開催し、管路維持の日本の取組（音聴棒を使った漏水調査）などをネパール水道関係者に実技方式で指導している風景



मन्तारी市役所職員の方々と式典の際に記念撮影
市長と副市長に挟まれ、センターに写っているのはご愛嬌を





村道路整備に伴い、現調・測量に行った際の作業風景と記念写真



カラン君（真ん中の男の子）のジャンマディン（お誕生日会）

主役はおめかしをするそうです

手前にお米を主役のおでこに付け、お祝いします（セトティカ）

このセトティカ（白色）はタマン族だけらしいです（ネワール族は赤色でした）



私のカウンターパートのDilli Adhikari さん宅にホームステイに行った時の記念写真です